



# 嬉 時 習 2024 No.1 2

嬉野市立嬉野小学校  
学校だより  
文責 中野 宗利  
令和6年12月5日

## ◎嬉野小学校をよくするための提案!!

6年生の国語科では、プレゼンテーションを学びます。そして、実際にテーマを決めてプレゼンに挑戦します。6年1組では「嬉野小学校をよくするための提案」ということで八つの提案をプレゼンしてくれました。発表スライドがよくできていて、考えが明確に伝わってきました。

提案内容は、「節電」「登校をより安全に」「体育での半ズボン、長ズボンを選択的に」「廊下を走らないための5分前行動」「寄り道をしない」「給食を残さないために」「中庭に遊具を増やそう」「給食の食器を割らないために」でした。この中で、「長ズボン」「遊具」は保護者の協力も必要と思われます。先生たちも協力して実現できたらなと思います。他の六つは、ぜひ自分たちで全校に提案し、実行に移してくれたらなと思います。

## ◎佐賀新聞「わかもの」の欄に掲載されました！

佐賀新聞に掲載された5年生8名の意見文を紹介します。自分の思いをしっかりと書いていていな、思いが伝わってくるなと思いました。

### 楽しめば力に

嬉野小5年 渡辺 彩

#### わかもの

パリオリンピック  
ツクなどで活躍  
した競泳の瀬戸  
大也選手と中村  
克選手が、佐賀市で水泳教室に参  
加したという記事を読み、瀬戸選  
手の「きついことも楽しめば力に  
なる」という言葉が印象に残りま  
した。

私はバレーボール部に入ってい  
ます。つらいこともあるけど、友  
達と気持ちを分かち合ったり、支  
えあったり、はげましあったりし  
ています。だから、瀬戸選手の言  
葉は心にひびきました。

また、「楽しむ」ためには、チ  
ームワークを高めたり、お互いに  
思いやりを持ったりすることが大  
事だと思っています。そうするこ  
とで、つらい練習でもみんなで乗  
りこえていけると思っています。そし  
て、後でふりかえった時に、自分  
たちの力が高まっていることを、  
感じる事ができればいいなと思  
います。

半年後、私たちは6年生になり  
ます。みんなでバレー部をさらに  
盛り上げていきたいです。そのた  
めには、つらい練習やきんちょう  
する試合でも、楽しみながらとり  
くむことで、自分たちの力を高め  
ていきたいです。

【2024年11月7日付の佐賀新聞】

### 木村選手はすごい

嬉野小5年 島田 かのん

#### わかもの

パリのパリリ  
ンピックを見て  
いると、車いす  
に乗っている選  
手や手を引かれて入場する選手な  
どさまざまでした。いくつかの  
競技を見ていて心に残ったのが競  
泳でした。目が不自由な人が泳げ  
るのか心配しながら見ていまし  
た。

なんと、100歳バタフライと  
50歳自由形で、日本の木村敏一  
選手が金メダルをかくとくしま  
した。木村選手は、先天性の病氣  
で2歳の時に視力を失ったそう  
です。そして、10歳で水泳を始め  
て、パラリンピックに5大会連  
続で出場するほどの選手だそう  
です。

泳ぎ方はとてもダイナミック  
で、目が不自由だなんて思えない  
ほどの泳ぎ方でした。おどろいた  
のは、まっすぐに泳げていること  
でした。コースロープに手がぶつ  
かりながら、泳ぐ方向を決めてい  
るそうです。

目が不自由でも一生けんめいに  
泳いでいるすがたに感動して、勇  
気をもらいました。私もいやなこ  
とやつらいことがあっても、最後  
まであきらめないで、がんばって  
いこうと思えました。パラリンピ  
ックの選手のみなさん、ありがとう  
ございました。

【2024年11月13日付の佐賀新聞】

### 将来の夢

嬉野小5年 峰松 永愛

#### わかもの

先日、「小学  
6年生の将来就  
きたい職業」と  
いう記事を読み  
ました。

その記事の中で、男の子に注目  
しました。1位がスポーツ選手で  
した。詳しく記事を読んでみると、  
野球選手がライバルのサッカー選  
手を上回り、最も人気だったそう  
です。それは、現在メジャーリー  
グで大活躍している大谷翔平選  
手や山本由伸選手のえいきようが  
とても大きいと思います。

反対に、スポーツ選手を夢見る  
女子がなぜ少ないのが疑問に思  
いました。女の子は、医師、看護  
師、医療関係、薬剤師がトップテ  
ンに入っています。その理由は、  
新型コロナウイルスが原因にある  
そうです。女の子は、社会の状況  
に合わせた職業に就きたいと思っ  
た人が多いようです。男の子とは大  
きくちがうところですね。

私の将来の夢は、女子の第6位  
にランクインしている「美容師」  
になることです。私の夢がかなっ  
た時、どんな社会になっているの  
か楽しみです。そして、どんな職  
業が人気なのか楽しみです。

【2024年11月14日付の佐賀新聞】

# 夢へつなげる

嬉野小5年 伊東 一花

## わかもの

パリオリンピック  
ツクで、興味深  
く見たのはスケ  
ボートの競技でし

た。10代の選手が出演していて、坂からすべりおりたり、さくの上をすべる様子はおどろきでした。いつの間にかあこがれの思いで、こぶしに力が入って応援してしました。

そういうえば、兄がスケボートを買っていたことを思い出しました。そして、私もスケボートの選手みたいに坂をすべりおりたりできないかな? と思って、思い切つてやつてみようと思いました。しかし、どうやって板に乗るのかや向きなどが分からなかったたので、インターネットで調べてみました。ボードに乗るタイミングは本当に難しかったです。何回か練習すると乗れるようになりました。次は「チックタック」です。体を前後に動かしながら、足を反対に動かして進む技です。

オリンピック選手のすごさを体感しました。スケボートの選手を見ながら、自分の好きなことを一生けんめいにやり続けることが、自分の夢につながるんだろかなあと思えました。私も夢に向かって真つすぐに進んでいきたいです。

【2024年11月15日付の佐賀新聞】

# オリンピックから

学んだこと

嬉野小5年 溝上 向日葵

## わかもの

パリ五輪な  
どで活躍した  
競泳のオリン  
ピアンが、佐

賀県内の交流行事に参加された記事を読みました。オリンピックの2人とは、瀬戸大也選手と中村克選手です。

リオデジャネイロ五輪で銅メダルを獲得した瀬戸選手が水泳教室に参加されたことはすごいと思いました。私は、あまり泳ぐの得意ではありません。しかし、5歳のころから五輪を目標に頑張つてこられた瀬戸選手は、「きついことを楽しめば力になる」と言われていて、とても印象に残りました。先日、初めてボルダリングを体験したときに、「もう無理!」「登れない!」とくり返し言っていました。しかし、あきらめずにチャレンジしていると、半分までたどり着くことができました。ふり返つてみると、よくここまで登れたなあと思えました。

私は、こわい物や不安に思うことがよくありますが、勇気を出していろんなことにチャレンジして楽しんでいきたいと思えるようになりました。

【2024年11月17日付の佐賀新聞】

# けがを乗り越えて

嬉野小5年 田中 菜白

## わかもの

パリオリンピ  
ックで一番心に  
残ったのは卓球  
です。特に早田

ひな選手に注目しました。混合ダブルスでは、張本智和選手と出場しました。メダルを期待されていましたが、1回戦で敗れてしまいました。個人戦では韓国の選手と戦つて銅メダルを獲得しました。しかし、いつもの力強いスマッシュが見られませんでした。最後は団体戦です。今回も決勝は中国戦でした。第1試合は張本美和選手とのペアで戦いました。早田選手の左腕にはテーピングが巻かれていました。前の試合で痛めて、注射を打つて試合に臨んでいるとのことでした。フルセットの末、負けてしまいました。そして銀メダルに終わりました。

個人戦後のインタビュで、「金メダルより価値のある銅メダルです」と答えていました。けがで思うようにプレーができずに銅メダルで終わつて悔しかったと思えます。たくさんの方がけがのサポートをしたおかげで、3位決定戦に臨めたんだろうと思います。だからこそ、インタビュでの言葉が出たんだな、と思いました。私も一つの目標に向かって、努力を重ねて夢をかなえたいと思いました。

【2024年11月18日付の佐賀新聞】

# まぼろしの運動会

嬉野小5年 雨郡 彩葉

## わかもの

私は、マイコ  
プラズマ肺炎に  
かかって、今年  
の運動会には参

加できませんでした。本当に残念な気持ちでいっぱいでした。部屋でねていると、運動会の音楽が聞こえてきました。「今ごろ、みんなは何をしているのかな」とか「赤組と白組はどこが勝っているのかな」とか思いながら、自分も運動会に参加している気分でした。

高学年になって初めて取り組んだ「フラッグ」や「ソーラン節」は、6年生が教えてくれました。動きが分かりにくいところは、実際にやってみせてくれたので、とても分かりやすかったです。「フラッグ」とは、1層くらいの竹のぼうに布がついたはたのような物を使う表現運動です。そのはたをふると「パサッ、パサッ」と音がしてすごくかっこいいです。難しかったところは、星をえがくようなおどりの部分でした。何度も何度も練習を重ねてできるようにになった時はとてもうれしい気持ちになりました。「本番で失敗したらどうしよう」と思っていたのがそのようでした。

聞こえてくる音楽に合わせて、そんなことを思いながら私の運動会は終わりました。

【2024年11月29日付の佐賀新聞】

# 運賃値上げから考える

嬉野小5年 平井 佳樹

## わかもの

先日、「祐徳  
バス初乗り16  
0円から180  
円」という記事

を読みました。ぼくは、バスを利用することはあまりありませんが、周りの人に聞いたら、「昔よりすごく高くなったよ」と教えてくれました。なぜ、値上がりしたのか気になって記事を読み進めました。すると、その原因は燃料費のこうどうや、人件費のかくほなど書いてありました。でも、運賃が値上がりすると、バスの利用者が減つちゃうんじゃないかと心配しました。

最近では、何でも値上がりして大変です。値上がりしたのは、食品が特に多いようです。野菜や乳製品や粉ものなど、家庭でなくなつては困る物がどんどん値上がりしています。いろいろな物が値上がりしていることへの対策を考えました。ぼくは子どもだからよく分からないけど、ほしい物があつてもなるべくがまんしようと思います。

また、最近気になるのが、強とうなどのはんざいが増えていることなんです。いろいろな物が値上がりして生活に困つても、はんざいが増える世の中にはなつてほしくないです。

【2024年12月1日付の佐賀新聞】